

事業番号 0099、0100

(事業名) 赤坂・京都迎賓館参観経費

(担当部局) 迎賓館

－公開プロセスでの評価結果－

<評価結果> 事業内容の一部改善

<取りまとめコメント>

迎賓館は新たに観光資源として位置付けられ、参観は賓客接遇という本来業務とは期間を区分けして対応することとなる。その際の参観者への対応と賓客の接遇機能との調整を十分に図りながら、これを進める必要がある。本件の参観経費についてはまだ過渡期ではあるが、従来の限定した公開時の対応や契約形態等にとらわれることなく、通年公開によって増えるコストの抑制について、参観料のレベルも含めて検討していく必要がある。

<外部有識者の評価>

イ 廃止	一名
ロ 事業全体の抜本的な改善	2名
ハ 事業内容の一部改善	4名
ニ 現状通り	一名

<外部有識者のコメント>

- ・新たに観光資源としての位置付けがなされたことに留意し、従来の契約形態にとらわれず、通年公開に伴い増加する予算の抑制に努める必要がある。
- ・実質、今年度からの事業と考えられるが、支出、収入ともに予算についての十分な検討ができていないものの、公開事業そのものに重要な問題はなく、一部改善にとどめる。
- ・通年公開に移行するにあたり、目的が「観光」なのか、「国民等が賓客外交の意義、迎賓施設の重要性の理解を深める」範囲にとどめるのか、コンセプトが明確でない。
- ・そもそも観光客を見込んだ目的の下で行うのであれば、そのための接遇、警備などをきちんと計画し、そのための予算を措置するべき。

- ・ 民間の旅行代理店等専門会社の利用も考えるべき。「とりあえず」という感じがありありとしている。
- ・ 参観料の設定も、物の価値、維持コスト、修繕費なども踏まえて適切に行うべきである。
- ・ 賓客接遇以外の日の第一目的は観光であるならば、それを徹底すべき。
- ・ 参観料が1000円では修繕代などが加味されていない。
- ・ プレミアムな参観など、一律以外の料金体系も考えられるのではないか（1人1万円のフルアテンドなど）
- ・ 現場の職員の負担軽減措置が必要。
- ・ セキュリティレベルを上げるべく、予算の確保と執行を抜本的に見直すべき。
- ・ 観光客の中には性善説で対処しきれない方もおられることを踏まえ、体制の強化が必要。
- ・ 観光立国という目的が達成されたかの判定基準は要検討。
- ・ 説明に際しては全体像の説明が不可欠。「観光」という政策目的をひとり歩きさせないようにしていただきたい。
- ・ ごく短期間の検討を経て「通年一般公開」となったものと思われるが、短期間の検討では見えていなかった論点も実際の稼働の中ではあったように思われる。迎賓館に「観光立国」への寄与という目的が付加される中で、警備、予算、体制の課題等について、一定期間経過後に整理すべきではないか。
- ・ 「観光」という政策目的に関して、外国の観光客を誘導できているのか。把握の方法を含めて再検討の必要があるのではないか。